

第278回 「インストラクションデザインの理論とモデル」輪読  
第6章 ディスカッションを用いたアプローチ

ジョイス・テイラー・ギブソン(マサチューセッツ大学ロウウェル校)

ディスカッションアプローチ(ディスカッション授業)は、  
学生と教師による活発な学習を中心とする教育手法である。

(Christensen, Garvin, & Sweet, 1991)

- 昨今の「アクティブ・ラーニング」の議論と密接にかかわる内容。
- ディスカッション授業には特徴があり、どのようなときにこの理論を用いるかという前提条件がある。
- ディスカッション授業には、何が重要であるかについての見解、すなわち価値観があり、普遍的な原理を知っておくことで、よりよい授業の実践が可能となる。
- 実施にあたっては、学習者を教育すること、やってはいけないことがある。
- 年齢や経験、特別な支援を必要とする学習者に対して、どのようにインクルーシブなディスカッション授業を作るのかを示す状況依存ガイドラインもまた参考になりそうである。

# ディスカッション授業の特徴

- ① 学習指導における責任を分担すること
- ② 学習者の声、経験、そして世界観を尊重すること
- ③ 学習指導の原動力として民主的参加を推奨すること
- ④ 批判的思考 (Critical Thinking) と課題追究のスキルを高めること
- ⑤ 知識追究のために共に学ぶ学習者の共同体 (Community of Learners) をつくること

⇒ 排他的でなく、参加型。

- ・「自由な環境や主導権を共有するオープン性、リーダーシップ、クラス運営に関する責任を要求する」(Christensen et al., 1991)
- ・「民主的な学習方法」「相互依存性と社会的活動、交流と探究、協力と協調、公式と非公式を内包」(Brookfield & Preskill, 2005)
- ・教師中心のアプローチから責任分担型アプローチへ

★工業時代の教育パラダイムの逆＝「教える」、から「学ぶ」へ



# 前提条件 (どのようなときにこの理論を用いるか)

- 内容
  - トピックの徹底的な調査、多くの情報は提示しない。
  - 批判的思考 (Critical Thinking) や課題解決スキル
- 学習者
  - すべての学習者
- 学習環境
  - すべての教室
  - 授業の一部または授業の全体
- インストラクション開発上の制約
  - リソースを開発する必要があまりないので、最小限



# 価値観(何が重要であるかについての見解)

- ① 個々人が自分自身の学びに参加すべきであると信じること
- ② コンセプトや問題に対する異なる味方を尊重すること
- ③ 協調作業と民主的な学習プロセスを促進すること
- ④ 質問や、批判的思考、問題解決能力を強調すること
- ⑤ 学習者の共同体を形成すること
- ⑥ 学ぶことは生活経験(life experience)と切り離すことができないものだと認めること

→トピックを深く追究していくこと、アイデアの交流、様々な視点を持つ人との交流が重視される場合、共同体の中で分析や批判的思考のスキルアップが必要な場合に適している。



# 普遍的な原理

## 1. メリルの第一原理の全てが含まれている

- ① 学習者が現実の問題に関わること
- ② 活性化
- ③ 新しく学ぶ事項の例示
- ④ 新しい知識の応用
- ⑤ 新たな知識を学習者の世界に統合していく

## 2. ディスカッション授業の普遍的な原理

- ① 責任の共有: 教師中心から学習の責任を教師と学習者が分かち合う
- ② 協調活動と多面的な観点: 世界観を尊重する雰囲気を作り出す
- ③ 教師が持つべき力量: 当該分野力量とグループファシリテーションスキル
- ④ 生活経験: 学習プロセスの中で、学習者の生活経験を認め、活用する
- ⑤ 高次の学びのための活動: 傾聴、省察、応答、結合を含むべき
- ⑥ 民主的な学びの共同体: 心配や恐れ、信頼の雰囲気、共通のルール
- ⑦ 物理的な環境: 必要な対話を可能にするような環境・ツールの活用



# 授業の実践

## 1. 始めてみる／計画を作る

指導計画は必要なツール。必ずしも指導計画通りになるとは限らないが、指導案がなければ悲惨な状況になる。教師にとって必要な3つの要素は、指導計画、参加者のコメント、グループ思考。

## 2. コンセプトの概要をつくる

主要コンセプトを決め、下位のコンセプトを決める。分析の指針となり、ディスカッションに一定の方向性をもたらす。骨格を描く準備作業をテンプレート化することを推奨 (Welty, 1989)

## 3. 質問の概要をつけ加える

質問の概要は、主要コンセプトと合致すべき。質問することは、ディスカッションを進行させるために決定的に重要なスキル (Silverman, Welty, & Lyon, 1993)。

## 4. 黒板もしくはホワイトボードを使って概要を可視化する

授業の進行に合わせて、関連するコメントや学習者、リーダーから出されるアイデアを記録し、ディスカッションの中で戦略的に使う。



# 学習者を教育する

- ①「本物」のディスカッションの例示を通じてプロセスをモデル化する  
プロセスの展開に応じてコメントすることは、参加者の理解を促進する重要なステップ。
- ②明確な期待を示す  
シラバスを用いて、科目の学習内容や、成績評価、参加タイプ、教師・学習者の役割の定義づけを提示。授業進展による学生の習熟など、期待される学生の行動を示す。
- ③対話の基本原則を決める  
積極的な参加を確実にするために、全員に共通する基本原則を決めておく。共同責任者としての不安をなくし、見解や意見を活発にし、クリエイティブでオープンで活発な対話の環境を創出する。
- ④練習用のセッションを計画する  
参加者がディスカッション授業のやり方に慣れ、自信を築くことができる。
- ⑤阻害要因と問題点を予想しておく  
困難さをあらかじめ調べ、立ち向かう方法を見込んでおくこと。



# 「やってはいけない」リスト

## (1) 講義をしちゃダメ！

最後までディスカッションのプロセスを貫くこと。

## (2) あいまいにしちゃダメ！

具体的に質問し、ディスカッションを始めるときは明確な方向性を示しましょう。

## (3) 沈黙をおそれちゃダメ！

慌てて間を埋めたりせず、沈黙の時間をそのままにしましょう。

## (4) 沈黙を誤解しちゃダメ！

不安、退屈、離脱が沈黙の理由であるとは限りません。人は、考えをまとめたり、どう対応するのかを決めるために十分な時間を必要とすることもあります。





# 状況依存ガイドライン

## (条件による変更の例)

### 1. 学習者の年齢と学習経験

学習者がとても若い場合、特別支援が必要な若い学習者、言語の障害に対して、教師は「学習の責任」の共有度合いや、コラボレーションの度合いを決めていく必要がある。

### 2. 遠隔またはオンラインの授業

対話手段がテクノロジーに依存しているため、原理の修正が必要。

### 3. 学習者の抵抗

受動的な学習者からより能動的な学習者への変容に対する抵抗は、ディスアッション授業による教育を始める前からその教授方法を崩壊させる可能性がある。過去のディスカッション経験、教師への不信感、学習に対する努力の欠如 など。

